

横山禎徳著「アメリカと比べない日本 - 世界初の『先進課題』を自力解決する - 」を読む

- 社会システム・デザインとは何かを考える -

「強靱性」、「先進性」、「影響力」から見た日本の強さ

- ・日本のアジア戦略をつくることが目的。
- ・戦略の本質は、「自国の強さに立脚し、それをとことん使いこなすこと」である。

<強靱性>

- ・環境の変化や不慮の力によってあっけなく壊滅したり、急速に衰退したりすることのない粘り強い底力。

<先進性>

- ・一人の天才や一つの突出した組織が時代や周囲の環境に関係なく存在しているような狭く尖っている状況ではなく、分野ごとに重層的広がりを持った先進度合い。

<影響力>

- ・先進課題の果敢ない発見と他に先駆けた解決力。
  - ・他国に広く認知されたブランド力。
  - ・日本で成功すると評価が上がるというお墨つき付与力。
  - ・先端的感覚を常に維持し新たな流行を創造する力。
- \*他に押しつける「影響力」ではなく、自然ににじみ出て受け入れる相手に歓迎されるような「影響力」。

経済の「強靱性」

科学・技術の「先進性」

大衆文化の「影響力」

\*先端的理論も素人がイメージする紙と鉛筆とタバコの3点セットで生み出されるわけではなく、世界中の重要な会議などに参加して議論を戦わせたり、先端的論文を検索したり、分析したりするスタッフが必要である。

また、物理学の例に見られるように、理科実験の限界が見えてきたなかで、巨大で高速のコンピューティング・パワーを活用したシュミレーションが、科学技術の重要な手段として認識されるようになってきた。

P.81

(コンピュータは)使い勝手のよさが大事である。使い勝手のよさが全体のパフォーマンスを決める。

P.82 ~ P.83

(日本が、)どの分野でも世界第2位であることは、とりたてて驚くことではない。みんなあまり気付いていないのだが、世界で人口が1億人を超えている先進国はアメリカ以外に日本しかないという、あまりに単純な事実のせいなのである。 P.87

・デザインするということは「統合」することである。すなわちバラバラの性能要求とそれに応えるバラバラの構成要素を全体と部分とがつじつまが合うようにまとめ上げることだ。 P.164

・「社会システム・デザイン」の5つのステップ

- (1)対象分野における消費者および生活者への価値提供を阻害している「悪循環」を発見し、定義する。
- (2)価値提供の効果が増大していく「良循環」を複数「発明」し、最良の案を選択する。
- (3)この「良循環」を障害なく回すために必要ないくつかのサブシステムを抽出する。
- (4)各サブシステムをいくつかのアクション・ステップの流れとして構成する。
- (5)個々のアクション・ステップをより具体的にするために、さらにサブ・サブ・システム、サブ・サブ・サブ・システムと分解していく。

これらの5つのステップを通じて、いろいろな分野とテーマに適した産業と省庁横串の「社会システム・デザイン」が出来上がっていく。

横山禎徳著「アメリカと比べない日本 - 世界初の『先進課題』を自力解決する - 」

ファーストプレス 2006年9月1日刊

- 2006年9月20日記 -